

(様式2)

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 函南町立東中学校 】

| | |
|--------------------|--|
| 1 実践テーマ | I・II・III・IV・V（複数選択可） |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | 3年生 129名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 () |
| 4 目標 (ねらい) | オリンピックのサイクリング競技が身近な場所で開催されることを機会に、オリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関することを学ぶ機会としたい。この学習を通して、オリンピック、パラリンピックを身近に感じると共に、スポーツを通して心と体を鍛え、世界中の人々との交流により平和な世界を築こうとする精神を育てる。 また、オリンピックやパラリンピアン講演を聴くことで、自分の夢に向けて挑戦しようとする意欲を高めたい。 |
| 5 取組内容 | (1)10月～12月 総合的な学習 「オリ・パラ学習を通して感じたことを、今後の生活に役立てよう!!」をテーマに、生徒は「パラリンピック・パラリンピアン」をキーワードに自己課題を設定し探求学習を行った。 ① 自己課題の設定 生徒の自己課題 ・「障がい者」という呼び方は、本当に使っているものなのか。 ・パラリンピックの選手村はバリアフリーなのか。 ・スポーツ義足の進化の余地は残されているのだろうか。 ・パラリンピックのメダルには、どのような工夫がなされているのか。 ② 調べ学習 ③ レポートの作成 ④ 発表会(学級) |

生徒の発表原稿①

(1)オリパラ探求学習のテーマ 「オリパラ学習をこれからの生活や進路に役立てよう」

① オリンピアンやパラリンピアンの講演会を聞いたり、パラリンピックの競技を体験したりして、

➡パラリンピアンはオリンピックと同じで、スポーツでNo.1を目指す、強い人たちなのだと知りました。障害があることを受け入れて、前向きに生きる人たちだと知りました。パラリンピアンのように障害を受け入れて生きる人々もいるのだ

ということを学びました。

② また、オリパラ学習を通して

➡授業の中で「障害者」という言葉を使うことに違和感を感じるようになりました。障害をもつ人々にとってこの呼び方は差別的に感じないのか、気になり、本当に使っていい言葉なのか心配になりました。

…に（疑問・興味）をもちました。

③ だから、わたしは今回のオリパラ探求学習の自己課題を

➡「障害者」という呼び方は本当に使っていいものなのか

に設定しました。

生徒の発表原稿②

④ 調べ学習でわかったことは、

➡ 「障害者」という呼び方をどう感じるかは人それぞれだということです。障害という言葉も差別的だと感じる人もいれば、言葉に過激に反応する方が差別的だという人もいました。また、へが不自由という呼び方よりも障害者と呼ばれた方が「障害」を外に感じられて心が軽くなる、という人もいました。ただ、「障害者スポーツ大会」など、わざわざ使わなくていい場面では、障害という言葉も別の言葉にしてほしいという人が多くいました。バスの定期券を買って、障とはんこを押されることがとても不愉快だという意見もありました。そこで、「障害」という字をあえて使うべきでない場面を見極めることも必要だ

…ということがわかりました。

⑤ 今回の学習から、

➡ どの言葉を選んでも、その言葉で傷つく人は必ずいるということが言えると思います。遠回しな呼び方で結局相手を傷つけてしまうのならば、自分なりに相手をおもった呼び方を使うことが最善だと思います。また、言葉に過激に反応することが、差別を生んでしまうこともある

…ということが言える(考えられる)と思います。

⑥ このオリバラ学習を通して

➡ 特定の人たちを過激に気遣うことも差別につながってしまうことがわかりました。このように、意図しなくても相手に「差別」と受け取られてしまうこともあるようです。だから、「差別」を本当に減らすにはどのようなコミュニケーションが必要か、ということが

…ということに気づき、新たな課題となりました。

(2) 1月12日(火) 4校時 総合的な学習

車イスラグビーの事前学習

(3) 1月12日(火) 5・6校時(13:20～15:10) 総合的な学習

「オリンピックによる講演会」

講師：官野 一彦 選手(車イスラグビー)

- ・講演会
- ・車イスラグビー タックル体験
- ・競技用車イス体験 学級対抗リレー

官野 一彦選手による講演会



官野選手指導によりタックル体験



学級対抗車イスリレー



お礼の会

エール

ダンス(ソーラン)



千羽鶴のプレゼント



6 主な成果

総合的な学習の時間に3年間のまとめとして、「オリ・パラ学習を通して感じたことを、今後の生活に役立てよう!!」をテーマに生徒が自己課題を設定し探求学習を行いました。

◆探求学習終了後のアンケート結果

①自分の力で追究できる自己課題を設定することができたか？

- ・できた (67.6%)
- ・少しできた (21.6%)
- ・ふつう (8.1%)
- ・あまりできなかった(0.9%)
- ・できなかった (1.8%)

②自ら進んで調べることができたか？

- ・できた (70.3%)
- ・少しできた (18.9%)
- ・ふつう (7.2%)
- ・あまりできなかった(1.8%)
- ・できなかった (1.8%)

③学習を進めることによって、疑問が解けたか？

- ・できた (72.1%)
- ・少しできた (14.4%)
- ・ふつう (10.8%)
- ・あまりできなかった(0.0%)
- ・できなかった (2.7%)

④今回の調べ学習(探求学習)でパラリンピック(パラスポーツ)に興味や関心を高めることができたか？

- ・できた (66.7%)
- ・少しできた (21.6%)
- ・ふつう (8.1%)
- ・あまりできなかった(0.9%)
- ・できなかった (2.7%)

⑤今回の調べ学習(探求学習)で障がい者への理解を高めることができたか？

- ・できた (73.0%)
- ・ふつう (5.4%)
- ・あまりできなかった(0.0%)
- ・少しできた (18.0%)
- ・できなかった (3.6%)

抽象的で難しいテーマだったと思いますが、生徒の関心や疑問は幅広く、様々な課題を設定することができました。各学級での発表会では、様々な課題に驚くと共に、自分のまとめも個性があふれ楽しく聞くと同時に個々の生徒が3年間のオリ・パラ学習で学んだことや感じ取ったことを知ることができました。

探求学習終了後に実施したアンケートより、3年間の講演会や体験で関心をもったことや疑問に感じたことから様々な自己課題を設定し課題の解決に向けて前向きに取り組むことができたと感じました。

◆オリ・パラ学習終了後のアンケート結果

(2020は質問に3年間のという言葉をつけ加える)

①(2020 3年間の)講演会を真剣に聞いたり、意欲的に体験したりすることができたか？

- ・できた 2019(72.9%)→2020(72.1%)
- ・少しできた 2019(18.7%)→2020(22.5%)
- ・ふつう 2019(1.9%)→2020(4.5%)
- ・あまりできなかった 2019(0.9%)→2020(0.0%)
- ・できなかった 2019(0.9%)→2020(0.9%)

②(2020 3年間の)講演会や体験を通して、スポーツの意義や価値について興味や関心を高めることができたか？

- ・できた 2019(75.7%)→2020(76.6%)
- ・少しできた 2019(15.0%)→2020(16.2%)
- ・ふつう 2019(4.7%)→2020(6.3%)
- ・あまりできなかった 2019(0.9%)→2020(0.0%)
- ・できなかった 2019(0.0%)→2020(0.9%)

③(2020 3年間の)講演会や体験を通して、パラリンピック(パラスポーツ)に興味や関心をもつことができたか？

- ・できた 2019(74.8%)→2020(75.7%)
- ・少しできた 2019(14.0%)→2020(16.2%)
- ・ふつう 2019(6.5%)→2020(5.4%)
- ・あまりできなかった 2019(0.9%)→2020(1.8%)
- ・できなかった 2019(0.0%)→2020(0.9%)

④(2020 3年間の)講演会や体験を通して、障がい者への理解を高めることができたか？

- ・できた 2019(74.8%)→2020(77.5%)
- ・少しできた 2019(16.8%)→2020(16.2%)
- ・ふつう 2019(3.7%)→2020(4.5%)
- ・あまりできなかった 2019(0.9%)→2020(0.9%)
- ・できなかった 2019(0.0%)→2020(0.9%)

| | |
|----------------------------|--|
| | <p>⑤(2020 3年間の)オリ・パラ学習は、自分の生き方や夢を前向きに考えたり、変えたりするきっかけにできたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できた 2019(61.7%)→2020(69.4%) ・少しできた 2019(24.3%)→2020(17.1%) ・ふつう 2019(7.5%)→2020(9.0%) ・あまりできなかった 2019(1.9%)→2020(1.8%) ・できなかった 2019(0.9%)→2020(2.7%) <p>◆生徒感想より (オリ・パラ学習を通して、学んだこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今まであまり関心がなかったパラリンピックや障がい者について知るきっかけになりました。障がいがあっても夢に向かって努力する姿はとてもかっこよく、自分も頑張ろうと思いました。 ○今まであまり知ることのなかったパラリンピックについて学んで障がいの有無にかかわらず、様々なスポーツと一緒に楽しむことができるということを学ぶことができました。パラリンピックは障がいをもつ人の差別をなくしていけるものだと思います。 ○自分の身にいつ何が起こるかわからないから今日このときを大切に、できることをやっていこうと思った。また、「障がいがある＝不自由、何もできない」という考えはいけない。 ○障がいのある・なしということは、本当は何も違いがないことをすごく感じました。私はスポーツが苦手ですが、ボッチャや車イスラグビーなどを体験してみることでだいぶ感じ方が違いました。 <p>オリ・パラ学習を1年生から始めて3年目。コロナウイルスの影響でパラリンピックの観戦ができなくなり生徒も寂しい思いをしていました。本年度は、オリパラ関連の講演会や体験が減ったにもかかわらず、昨年度に比べ、スポーツに対する意義や価値や障がい者の理解が深まっていることを事後アンケートの生徒の感想から感じることができました。</p> <p>アンケートやパラリンピアン講演会の生徒の感想より、障がい者はかわいそうというイメージから、障がい者はすごいというイメージが定着していると同時に、健常者と障がい者の共生につながる学習になっていることも実感できました。</p> |
| <p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・本校の学校教育目標「夢の実現に向け、挑戦し続ける生徒」の達成のため、講師のパラリンピアンには、「夢」についても一緒に話をいただいています。そのおかげで、「夢」を持つこと、「夢」の実現に向けて努力の大切さも感じるようになり、日々の勉強や部活動に一生懸命に取り組む生徒が増えてきました。 ・来てくれた講師の方々にダンス、エール、千羽鶴のプレゼントにより感謝の気持ちを伝えると同時にオリンピック・パラリンピックを応援し東京オリンピックパラリンピックへの興味関心を高めた。 |

| | |
|------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・町の生涯学習課と連携を図り、オリンピック・パラリンピックに関するイベントを優先的に回してもらい、オリ・パラ学習を継続的に進めた。 |
| 8 主な課題等 | <ul style="list-style-type: none"> ・地元の現役選手をお願いしていたが、選手の練習日程の変更があるので、講演会の実施時期や日程の調整が難しい。 ・講演会は生徒にとっても好評であった。自校で講師を探すのはとても大変であることを実感した。 |
| 9 来年度以降の 実施予定 | <ul style="list-style-type: none"> ・未定 |